

研究活動報告(アルファベット順)

2016年(1月1日から12月31日)における専任教員の研究活動歴である。ここに掲載されているものは、大阪女学院大学・短期大学研究活動委員会の依頼に応じて、各専任教員が自己申請したものに限定されていることを付記する。研究活動歴は以下のように分類される。

氏名, (専門領域), I.著訳書, II.学術論文, III.その他の著作(研究ノート, 報告書, 雑誌, 新聞, ニュースレター等), IV.学会発表, V.その他の発表(シンポジウム, 講演, 放送等), VI.学会および公的な機関の委員, VII.科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

青木 慶(あおき・けい) [経営学]

II. 学術論文

- (1)「企業と消費者の共創活動における、参加者のモチベーションに関する研究－クックパッド・楽天レシピ比較事例研究－」, 『マーケティングジャーナル』Vol. 35 (4), 2016年3月, 単著
- (2) “How to manage a co-creation community: The case of recipe site”, *US-China Law Review*, vol. 13, 2016 Apr., individual work

IV. 学会発表

- (1) “Entrepreneurship Derived From the Co-Creation Community: From Hobbyists to Micro entrepreneurs”, The 14th International Open and User Innovation Conference, Harvard Business School, 1st Aug. 2016
- (2)「ブランドアドボケイツを介した顧客間コミュニケーション－スターボックスの事例より－」, 日本マーケティング学会 マーケティングカンファレンス2016, 於: 早稲田大学, 開催日 2016年10月16日

VII. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1)「発災時の共創的問題解決に関する研究」 公益財団法人JR西日本あんしん社会財団「平成28年度公募助成」 2016年4月～2017年3月
- (2)「アンバサダーを介した、ブランド体験価値の共創に関する研究」 公益財団法人吉田秀雄記念事業財団「平成28年度研究助成」 2016年4月～2017年3月

崔 大龍(チェ・デリョン) [戦略経営]

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1)「戦略経営協会 ニュースレター」の執筆・編集, 2016年1月から12月

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本戦略経営協会 副会長 2004年から現在に至る

Cornwell, Steve (コーンウェル・スティーブ) [TESOL and Education]

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) Possible Selves and Our Students. *Osaka Jogakuin Kyosei Kenkyosho Tsushin*, 10: 2-3.

IV. 学会発表

- (1) Teachers Helping Teachers SIG Forum: Volunteer Teacher Opportunities JALT2016 Conference, Nagoya, November 26, 2016

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) You're the Boss. Now What? International Academic Forum Honolulu HI January 9, 2016

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) JALT, Board of Directors, Director of Program, continuing from last year-1/1/2014 through 12/31/2014 and into present
- (2) IAFOR (International Academic Forum), Advisory Board, Local Conference Chair, continuing from last year-1/1/2014 through 12/31/2014 and into present
- (3) JALT Journal, Editorial Advisory Board member, continuing from last year-1/1/2014 through 12/31/2014 and into present
- (4) The Language Teacher, Editorial Advisory Board member, continuing from last year-1/1/2014 through 12/31/2014 and into present

夫 明美(ふ・あけみ) [第二言語習得, 英語教育]

IV. 学会発表

- (1) 「Cultural Understanding through a University Students Textbook Analysis Project」 Jalt back to school conference 於：大阪女学院大学 2016年4月23日
- (2) 「New E-book: Integrated-reading Ipad textbook」 関西英語教育学会第21回研究大会 於：大阪教育大学 2016年6月12日
- (3) 「基本動詞(多義動詞)の理解に役立つ視聴覚コンテンツ-ショートアニメを中心に-」 日本語教育学会平成28年度秋季大会 於：ひめぎんホール 2016年10月9日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 国立国語研究所 「基本動詞ハンドブック」 共同研究者 2013年度-現在

福島 知津子(ふくしま・ちずこ) [英語教育学]

II. 学術論文

- (1) 「フィンランドの中学生によるキーワード英作文に関する研究」『鳴門英語研究』第26号, 2016年2月, 単著
- (2) 「リーディング活動後の英作文の効用に関する一考察-教師と学習者のinteractionの手だてとしての英作文-」『英語と教育』第5号, 2016年3月, 単著

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) (ニュースレター)「高知英語学英語教育研究会News letter」, 第3号, 2016年1月18日発行, 編集

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 高知英語学英語教育研究会 CDジャーナル副編集委員長 2014年4月~2016年4月
- (2) 全国英語教育学会 紀要査読委員 2016年4月~現在に至る

幡新 大実(はたしん・おおみ) [英米法, イギリス法, 人権]

I. 著訳書

- (1) 「憲法と自衛隊：法の支配と平和的生存権」東信堂(279ページ) 2016年8月15日単著

平野 真理子(ひらの・まりこ) [アメリカ文学, 日系アメリカ文化・歴史・文化・コミュニティ研究]

I. 著訳書

- (1) 「創り出された『超自然』-ジェシカ・カウスナ・サイキ「妖怪」における一考察-」文学と評論社編『超自然-英米文学の視点から-』, 英宝社, 207-217頁, 2016年5月25日, 単著

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「ハワイ伝統文化-hula auana(現代フラ)とhula kakiko(古典フラ)の展望」『神戸英米論叢』第29号, 2016年2月, 単著
- (2) 〈書籍紹介〉ヴァレリー・スミス著, 木内徹・西本あづさ・森あおい訳『トニ・モリスン 寓

意と想像の文学』(彩流社, 2015年), 大阪女学院大学国際共生研究所通信 第10号, 2016年10月31日

IV. 学会発表

- (1) Poster presentation: "Using iPad in Reading Classes at Osaka Jogakuin University and Junior College." Co-hosted by Research Institute on Collaboration and Coexistence (RIICC) and Japan Association for Language Teaching (JALT), OJC, April.23, 2016.
- (2) 「Susan Nunesの短編小説におけるハワイの日系アメリカ人コミュニティ」, アジア系アメリカ文学研究会(AALA) 第129回例会, 於: 神戸大学, 2016年11月12日
- (3) 「"hapa"(ユーレイジャン)としてのアイデンティティ探求ーハワイの日系三世作家, Susan Nunesの作品を中心にー」, 日本英文学会関西支部第11回大会, 於: 神戸学院大学, 2016年12月17日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 模擬授業「求められる英語力って?」, 和歌山県立那賀高等学校, 2016年2月20日
- (2) 「日系アメリカ人の歴史と文学ーハワイへの移民を巡る一考察」, 大阪女学院大学・短期大学学内研究会, 2016年7月27日
- (3) 模擬授業「英語力とは何か?」, 奈良県立西の京高等学校, 2016年10月24日

Johnston, Scott (ジョンストン・スコット) [International Education, intercultural communication]

II. 学術論文

- (1) "Evolution of Collaborative Learning on the Web: Japan and UAE." *SEITAR Journal of Intercultural Communication*, 19, May 2016, p. 195-210, (co-written with Wade Muncil).

香川 孝三(かがわ・こうぞう) [労働法・アジア法]

I. 著訳書

- (1) 『インドの労働・雇用・社会ー日系進出企業の投資環境』労働政策研究・研修機構(木曾順子・北澤謙との共著), 2016年3月
- (2) 『女性クリスチャンの生きざま』コンポーズ・ユニ, 2016年11月

II. 学術論文

- (1) 論文「アセアン経済共同体とベトナムの労働運動」労働調査552号, 2016年5月, 17-20頁
- (2) 論文「アセアン経済統合と労働問題」国際産研35号, 2016年7月, 49-76頁
- (3) 論文「アジアの労働問題と労働法の最近の動向」Work & Life 世界の労働, 2016年5号, 2016年10月, 2-7頁
- (4) 論文「ベトナムにおける婚姻の性中立化をめぐる動き」日本ジェンダー研究19号, 61-67頁

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 解説「営業に振り回される職場」LDノート2016・1月号, 16-17頁
- (2) 巻頭言「ミャンマーの政権交代と労働法」労働法律旬報1857号, 2016年2月, 4-5頁
- (3) 判例評釈「外国人研修生の労働者性と解雇の効力」金沢地小松支部判決, 平成26年3月7日, ジュリスト1490号, 2016年3月, 127-130頁
- (4) 翻訳「インドの工場法」「インドの労働組合法」「インドの労働争議法」国際労働財団ホームページ, 2016年3月, 「アジアの労働法」に掲載
- (5) 判例評釈「外国人労働者と受入企業との黙示の労働契約の成否」名古屋地裁岡崎支部判決平成26年4月14日, ジュリスト1497号, 2016年9月, 127-130頁
- (6) 解説「女性差別をめぐる法律問題」LDノート2016・9月号, 16-17頁
- (7) 翻訳「カンボジア労働法」「カンボジア労働組合法」国際労働財団ホームページ, 2016年9月「ア

「アジアの労働法」に掲載

- (8) 解説「日本の外国人政策」東京新聞2016年10月23日, 日曜版
- (9) 書評 石川明人『キリスト教と戦争』大阪女学院大学国際共生研究所通信, 2016年11月, 9頁
- (10) 書評Tran Ngoc Angie, Ties that Bind: Cultural Identity, Class and Law in Vietnam's Labour Resistance, アジア経済57巻4号, 2016年12月, 85-88頁

IV. 学会発表

- (1) 「ミャンマーにおける労働法の現状」アジア法学会, 関西大学, 2016年11月20日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 講演「Labour Law in Asian Countries」神戸大学大学院国際協力研究科, 2016年6月10日
- (2) 研究報告「アジアの女性の地位」京都文化創生機構, ウィングス京都, 2016年7月30日
- (3) 講演「The Present and Future of Flexible Employment in Japan」China Labour Law and Employment Relationship Forum, 2016, 上海, 2016年9月7日
- (4) 講演「労働法の起源」法務省法整備支援事業, 「ラオスの経済法紛争処理制度研修」, 法務総合研究所国際協力部, 2016年9月27日
- (5) 講演「労働契約法」金属労協労働リーダーシップコース, 関西セミナーハウス, 2016年10月24日
- (6) 模擬授業「企業と人権」兵庫県立甲北高校, 2016年10月12日
- (7) 模擬授業「国際関係のなかの子ども」枚方高校, 2016年10月27日
- (8) 研究報告「環太平洋時代と京都の経済と文化」京都文化創生機構, 同志社大学, 2016年11月5日
- (9) 模擬授業「国際関係のなかの子ども」尼崎小田高校, 2016年11月9日
- (10) 模擬授業「国際関係のなかの子ども」兵庫県立津名高校, 2016年12月21日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本労務学会名誉会員
- (2) アジア法学会理事
- (3) 日本ジェンダー学会理事
- (4) 兵庫県労働運動史編纂委員会委員長
- (5) 金属労協労働(JCM) リーダーシップコース校長
- (6) 一般社団法人国際産業関係研究所理事・主任研究員
- (7) 竹文化振興会理事
- (8) 京都文化創生機構副代表
- (9) Asian Society of Labour Law, Member of Executive Board

VII. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) 「東アジア諸国における非典型雇用の公的・実態分析」科研費基盤研究(B), 研究分担者, 研究代表・青山学院大学藤川久昭教授

加藤 映子(かとう・えいこ)〔言語習得, 最新ICTを活用した教育〕

I. 著訳書

- (1) 「ICTを活用した英語学習法」Apple iTunes Store
<https://itunes.apple.com/jp/book/ictwo-huo-yongshita-ying-yu/id1084905628?mt=11>

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 第4回教育研究セミナー 「ICUのリベラルアーツ教育」報告 大阪女学院教育研究センター News Letter 第9号 2015年12月8日
- (2) 「導かれて」大阪女学院教育研究センター News Letter 第10号 2016年5月10日
- (3) 「読み聞かせ」聖教新聞 2016年4月30日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) テレビ出演「世界一受けたい授業 3時間目 絵本」日本テレビ系列 2016年2月6日
- (2) テレビ電話出演「ドデスカ きょうイチ! 絵本 おやすみロジャー について」名古屋テレビ 2016年2月23日
- (3) 「外国語」和歌山県立日高高校ガイダンス 2016年3月4日
- (4) 「iPad 研修」大阪府立桜塚高校 2016年3月24日
- (5) 「Ice break セッション」ADE Meet up Osaka 2016年4月3日
- (6) 「はらぺこあおむしで読み解く日米教育事情」高大連携授業 八尾翠翔高校 2016年6月16日
- (7) 「はらぺこあおむしで読み解く日米教育事情」夢ナビ講義 於：インテックス大阪 2016年6月18日
- (8) テレビ出演「世界一受けたい授業 2時間目 絵本」日本テレビ系列 2016年7月9日
- (9) 「タブレット端末を活用して英語教育」関西教育ICT展 於：インテックス大阪 2016年8月5日
- (10) 講演(招待)「子どものことば育む絵本の読み聞かせ」加古川市民大学 於：加古川市民会館 2016年9月4日
- (11) 講演「絵本で広がることばの世界」大阪女学院大学 Homecoming Day 2016年9月24日
- (12) 「iPadを活用した英語教育」ADE Cafe 於：大阪女学院大学 2016年10月6日
- (13) “Human Development Based on Christianity” ACUCA Biennial Conference & 21st General Assembly, 於：Dhyana Pura University 2016年10月14日
- (14) 「海外で活躍する職業」大阪府立堺東高校ガイダンス 2016年11月17日
- (15) テレビ出演「世界一受けたい授業 1時間目 絵本」日本テレビ系列 2016年11月19日
- (16) “Very Hungry Caterpillar” 読み聞かせ 於：大阪市立南小学校 2016年12月17日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 大阪私立短期大学協会 理事
- (2) 日本私立大学連盟 学長会議 幹事
- (3) コンピュータ利用協議会 国際交流委員会委員
- (4) ADE Global Institute 2016 board member
- (5) ADE APAC board member

小松 泰信(こまつ・やすのぶ)〔図書館情報学, 情報リテラシー〕

II. 学術論文

- (1) 共通ICT プラットフォームの活用：マルチデバイスに対応する組織体制 IDE：現代の高等教育(585), 23-27, 2016-11 単

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 大阪女学院大学・短期大学 PC学修環境からタブレット・BYOD学修環境に対応する組織へ 大学教育と情報154, 30-33, 2016 文責 単
- (2) オンライン教材, 教学IRと大学図書館 大学図書館問題研究会誌(41), 29-40, シンポジスト 共

IV. 学会発表

- (1) デジタル化された全学情報リテラシー教育の現在～学習情報の蓄積と共有を通じて～ 大学図書館問題研究会近畿三支部合同例会 於：弁天町ORC200生涯学習センター 2016年3月21日

Kramer, Brandon (クレーマー・ブランドン)〔Vocabulary Acquisition, Language Testing, Corpus Linguistics〕

II. 学術論文

- (1) “The creation of a New Vocabulary Levels Test.” *Shiken*, vol. 19(2), November 2015, joint.

- (2) “The development of a Japanese bilingual version of the New Vocabulary Levels Test.” *Vocabulary Education and Research Bulletin*, vol. 5(1), February 2016, joint.
- (3) “A response to Holster and Lake.” *Language Assessment Quarterly*, in press, joint.
- Ⅲ. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)
- (1) “Book Review 1: *Learning Vocabulary in Another Language*.” *RICC Newsletter*, vol. 10, October 2016, individual.
- Ⅳ. 学会発表
- (1) “An updated listening vocabulary levels test.” JALT 41st Annual International Conference, Shizuoka, November 2015.
- (2) “Listening self-efficacy for Japanese students: A Rasch-based instrument validation.” 18th Temple University Applied Linguistics Colloquium, Tokyo, February 2016.
- (3) “The vocabulary of graded readers.” Vocab@Tokyo International Conference, Tokyo, September 2016.
- (4) “A comparison of multiple-choice and yes/no test formats with a meaning-recall knowledge criterion.” Vocab@Tokyo International Conference, Tokyo, September 2016.
- (5) “Two empirical examinations of the effect of guessing on VST scores.” Vocab@Tokyo International Conference, Tokyo, September 2016.
- (6) “Revisiting the word family: What is an appropriate lexical unit for Japanese learners?” Vocab@Tokyo International Conference, Tokyo, September 2016.
- (7) “Accurately measuring l2 listening self-efficacy.” JALT 42nd Annual International Conference, Nagoya, November 2016.
- Ⅴ. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)
- (1) “Assessment to maximize student learning.” Kansai University faculty development workshop, Osaka, July 2016.
- Ⅵ. 学会および公的な機関の委員
- (1) Vocab@Tokyo Conference Committee, Guidebook editor, 2016/2 - 2016/9

黒澤 満(くろさわ・みつる)〔国際法, 国際関係論〕

Ⅰ. 著訳書

- (1) 『平和と安全保障を考える事典』広島市立大学広島平和研究所編, 法律文化社, 701頁, 2016年3月, 共著(編集委員, 6項目執筆)
- (2) 『2016年版ひろしまレポート: 核軍縮・核不拡散・核セキュリティを巡る2015年の動向』広島県/日本国際問題研究所軍縮・不拡散促進センター, 150頁, 2016年3月, 共著
- (3) ウォード・ウイルソン『核兵器をめぐる5つの神話』法律文化社, 173頁, 2016年5月, 日本語監修

Ⅱ. 学術論文

- (1) 「核兵器廃絶の展望と課題: 2015年NPT再検討会議を踏まえて」『季論』31号, 2016年冬号, 107-117頁, 2016年1月, 単著
- (2) “The 2015 NPT Review Conference and Nuclear Disarmament,” *Osaka University Law Review*, No.63, pp.53-88, February 2016. 単著
- (3) 「広島外相会合と正念場を迎えた核軍縮・不拡散」『外交』vol.36, March 2016, 78-83頁, 単著
- (4) 「核兵器の非人道性」日本国際問題研究所軍縮・不拡散促進センター『核兵器不拡散条約(NPT)第6条に基づく「効果的措置」及び核兵器の非人道性に係る核軍縮政策』, 2016年3月, 34-45頁, 単著
- (5) 「オバマ大統領の広島訪問と核軍縮の課題」『阪大法学』, 第66巻3・4号, 2016年11月30日, 245

Ⅲ. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「核兵器不拡散条約(NPT)運用検討会議における日本の存在感」外務省軍縮不拡散・科学課編集『日本の軍縮・不拡散外交(第7版)』, 2016年3月
- (2) 「G7外相広島宣言」『毎日新聞』4月12日
- (3) 「G7外相:被爆地訪問呼びかけ 成果」『読売新聞』4月12日
- (4) 「米首脳広島訪問-識者評論 求められる核軍縮の提案」『神戸新聞』4月13日
- (5) 「非核実現へ広島から:被爆者との対話に期待」『朝日新聞』5月11日
- (6) 「ヒロシマ「英断歓迎」」『毎日新聞』5月11日
- (7) 「核を戦争の問題に普遍化」『朝日新聞』5月28日
- (8) 「核軍縮 具体的行動に」『読売新聞』5月28日
- (9) 「核軍縮 現状や課題議論」『中国新聞』6月2日
- (10) 書評「浦田賢治編著『原発と核抑止の犯罪性-国際法・憲法・刑事法を読み解く(日本評論社)』」, 政治経済研究所『政経研究』106号, 2016年6月
- (11) 「核神話への反論本出版」『中国新聞』7月12日
- (12) 「核廃絶テーマ 長崎でシンポ」『朝日新聞』7月31日
- (13) 「国際平和シンポジウム2016 核兵器廃絶への道」『朝日新聞』8月6日
- (14) 「核軍縮に関する国際情勢(23):国連核軍縮作業部会とオバマ大統領の広島訪問」『平和の風』第23号, 8-15頁, 2016年8月
- (15) 「そこが聞きたい:どうなる核なき世界 新たな発想で対立解け」『毎日新聞』9月22日
- (16) 「同盟国に反対求める文書 核禁止条約交渉 米に焦り」『朝日新聞』10月27日
- (17) 「日印原子力協定どう見る 核開発援助につながる」『朝日新聞』11月12日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「軍縮・不拡散教育」長崎大学核廃絶研究センター, 1月9日
- (2) 「核軍縮を巡る2015年の動向」ひろしまレポート研究会, 東京, 1月15日
- (3) 「核軍縮の現状と日本の取り組み」香川大学法学会, 香川県高松市, 2月4日
- (4) 「核軍縮を巡る最近の動向」広島県平和推進プロジェクト『青少年のための核軍縮会議』, 広島, 2月20日
- (5) 「核兵器廃絶に向けた世界の動向」第9回核戦争防止国際医師会議(IPPNW)北アジア会議『核兵器廃絶と非核兵器地帯』, 広島, 2月28日
- (6) 「核兵器の非人道性」核兵器不拡散条約(NPT)第6条に基づく「効果的措置」及び核兵器の非人道性に係る核軍縮政策研究会, 東京, 2月29日
- (7) 「核軍縮-核兵器の削減・役割低減などを中心に」ワークショップ『核軍縮・核不拡散・核セキュリティを巡る2015年の動向と2016年の課題・提言』, 東京, 3月22日
- (8) “Disarmament and Non-Proliferation Education,” Critical Issues Forum, Middleberry Institute of International Studies, Monterey, U.S. 14-17 April.
- (9) 「核軍縮の歴史的展開」同志社大学大学院グローバルスタディーズ研究科, 京都, 5月17日
- (10) 「核拡散防止の歴史的展開」同志社大学大学院グローバルスタディーズ研究科, 京都, 5月24日
- (11) “Academia’s point of view of the current status and future perspective of nuclear disarmament and non-proliferation,” UNIDIR 88th Public Session Towards “a World without Nuclear Weapons,” Hiroshima, June 1
- (12) “How to Achieve Deep Cuts in Nuclear Armaments?: Comment,” 日本平和学会, 東京, 6月26日
- (13) 「核兵器廃絶への道:オバマ時代から未来へ」朝日新聞社国際シンポジウム, 長崎, 7月30日
- (14) 「平成28年 広島平和式典」ラジオNHK第一放送, 広島, 8月6日

- (15) 「被爆71年 広島原爆の日特集」テレビNHK広島, 広島, 8月6日
- (16) 「核兵器を削減するためのアプローチ」広島県グローバル未来塾inひろしま, 東広島, 8月19日
- (17) 「核軍縮・不拡散」外務省軍備管理軍縮課, 有識者との意見交換会, 東京, 8月30日
- (18) 「軍備管理・軍縮」平成28年度軍縮・不拡散講座, 東京, 8月31日
- (19) 「国際共生を通して大阪女学院のミッションを考える」大阪女学院教育研究センター, 11月8日
- (20) “Peace and Security in Northeast Asia,” First meeting of PSNA, Nagasaki University, 長崎, 11月19-20日
- (21) 「核の脅威にどう対応すべきかー北東アジアの非核化と安全保障」核兵器廃絶長崎連絡協議会公開シンポジウム, 長崎, 11月20日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本軍縮学会 理事・監事
- (2) 日本国際問題研究所 軍縮・不拡散促進センター 客員研究員
- (3) Editorial Board of the Nonproliferation Review, Member
- (4) 核戦争防止医師会議 (IPPNW) 大阪支部 特別顧問
- (5) 国立大学法人長崎大学核兵器廃絶研究センター 顧問
- (6) Panel on Peace and Security in Northeast Asia (PSNA), Member
- (7) ひろしまレポート作成事業 委員
- (8) 広島平和祈念記念館展示説明文執筆会議 委員
- (9) 日本バグウォッシュ会議諮問会議 委員

VII. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) 「安全保障貿易管理の法秩序ー安全保障と国際経済の均衡点の分析と実務提言」, 基礎研究 (A) (一般)

Lyddon, Paul A. (リダン・ポール) [Second Language Acquisition and Teaching]

I. 著訳書

- (1) “Rendaku awareness of Japanese language learners in Taiwan: Students at Ming Chuan University.” In T.J. Vance & M. Irwin (Eds.), *Perspectives on Rendaku*, John Benjamins, pp. 55-77, June 2016, joint work

II. 学術論文

- (1) “Rendaku and homophony.” *Phonological Studies*, vol. 19, Mar. 2016, joint work
- (2) “Redesigning the Freshman English syllabus: A pedagogy of process and transformation.” *Journal of Kanda University of International Studies*, vol. 28, Mar. 2016, joint work
- (3) “Mobile-assisted language learning and language learner autonomy.” *CALL communities and culture—Short papers from EUROCALL 2016*, Dec. 2016, individual work

IV. 学会発表

- (1) “Progressive implementation of tablet computers in English language teaching and learning.” Osaka JALT, Osaka, Apr. 23, 2016
- (2) “Design and implementation of content-based eBooks.” Kansai English Language Education Society, Osaka, June 12, 2016
- (3) “Mobile-assisted language learning and learner autonomy.” EUROCALL, Limassol, Cyprus, Aug. 27, 2016
- (4) “Rendaku and labial lenition.” European Association for Japanese Studies, Kobe, Sept. 24, 2016

Ⅶ. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) Rendaku: Towards a Hierarchy of Blocking Constraints, JSPS Grant-in-Aid for Scientific Research (C), 2014-2017

馬淵 仁(まぶち・ひとし)〔異文化理解論, 多文化共生論, 教育社会学〕

I. 著訳書

- (1) 「アイデンティティ再考－振り返りと今後の課題」, 山本雅代, 馬淵仁, 塘利枝子編著『異文化間教育のとらえ直し』(異文化間教育学体系3), 明石書店, pp.28~43, 2016年6月, 単著
- (2) 「序章 異文化間教育のとらえ直し」, 山本雅代, 馬淵仁, 塘利枝子編著『異文化間教育のとらえ直し』(異文化間教育学体系3), 明石書店, pp.13~27, 2016年6月, 共著
- (3) 「終章 課題と展望」, 山本雅代, 馬淵仁, 塘利枝子編著『異文化間教育のとらえ直し』(異文化間教育学体系3), 明石書店, pp.197~212, 2016年6月, 共著

II. 学術論文

- (1) 「オーストラリア各州の教育比較」, 『オセアニア教育研究』, 第22号, pp.1~6, 2016年12月, 単著

IV. 学会発表

- (1) 「異文化間教育の捉え直し－マクロな視点から政策提言へと繋がる課題」, 異文化間教育学会, 於: 桜美林大学, 2016年6月4日

Ⅵ. 学会および公的な機関の委員

- (1) オセアニア教育学会 会長 (2016年度)
- (2) 異文化間教育学会 理事 (2016年度)
- (3) 日本国際文化学会 理事 (2016年度)
- (4) オーストリア学会 紀要編集担当理事 (2016年度)

Mclean, Stuart(マククリーン・スチュアート)〔TESOL, Vocabulary Acquisition, Language assessment〕

I. 著訳書

- (1) *Journal of Extensive Reading*, vol. 4. JALT Extensive reading SIG, 1-86, October 2016, joint.
- (2) *Vocabulary Education & Research Bulletin*, vol. 4(2). JALT Vocabulary SIG, 1-26, October, joint.

II. 学術論文

- (1) "The creation of a New Vocabulary Levels Test." *Shiken*, vol. 19(2), November 2015, joint.
- (2) "The development of a Japanese bilingual version of the New Vocabulary Levels Test." *Vocabulary Education and Research Bulletin*, vol. 5(1), February 2016, joint.
- (3) "A response to Holster and Lake." *Language Assessment Quarterly*, in press, joint.
- (4) "An empirical examination of the effect of guessing on vocabulary size test scores." *Vocabulary Learning and Instruction*, vol. 4 (1), October 2015, joint.
- (5) "The importance of supporting inferences with evidence: Learning lessons from Huffman (2014) in the hope of providing stronger evidence for extensive reading." *Reading in a Foreign Language*, vol. 28(1), April 2016, solo.
- (6) "An Edited Version of the First Eight 1,000-Word Frequency Bands of the Japanese-English Version of the Vocabulary Size Test." *The Language Teacher*, Vol. 40(4), July 2016, joint.
- (7) "Loanwords and Vocabulary Size Test Scores: A Case of Different Estimates for Different L1 Learners". *Language Assessment Quarterly*, vol.13(3), 2016, August 2016, joint.

IV. 学会発表

- (1) "An updated listening vocabulary levels test." JALT 41st Annual International Conference, Shizuoka, November 2015.
- (2) The appropriateness of utilizing the word family unit with Japanese and Khmer university students. CAMTESOL CamTESOL-UECA Regional ELT Research Symposium, Phnom Penh, Cambodia, March 2015.
- (3) Identifying gaps in Khmer university students' affix knowledge in order to assist productive and receptive language teaching. CAMTESOL CamTESOL-UECA Regional ELT Research Symposium, Phnom Penh, Cambodia, Cambodia, March 2015.
- (4) "The vocabulary of graded readers." Vocab@Tokyo International Conference, Tokyo, September 2016.
- (5) "A comparison of multiple-choice and yes/no test formats with a meaning-recall knowledge criterion." Vocab@Tokyo International Conference, Tokyo, September 2016.
- (6) "Two empirical examinations of the effect of guessing on VST scores." Vocab@Tokyo International Conference, Tokyo, September 2016.
- (7) "Revisiting the word family: What is an appropriate lexical unit for Japanese learners?" Vocab@Tokyo International Conference, Tokyo, September 2016.
- (8) "The Word Family or the Lemma With EFL Learners?" JALT 42nd Annual International Conference, Nagoya, November 2016.

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) "The importance of data accuracy as well as data reliability, and considerations when conducting Rasch analysis" 第9次 基礎理論研究部会 第4回 研究例会, Osaka, July 2016.

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) Language Testing - Reviewer
- (2) Reading in a Foreign Language - Reviewer
- (3) Journal of extensive reading - Reviewer
- (4) American Association for Applied Linguistics (AAAL) - Abstract reviewer
- (5) Vocabulary Education and Research Bulletin - Editor
- (6) Journal of extensive reading - Editor

VII. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) The creation and validation of productive and receptive vocabulary levels tests, Grand-in-Aid for Scientific Research, April 2016 to March 2018.

前田 美子(まえだ・みつこ) [比較・国際教育, 開発教育, 国際協力, 理科教育、教育方法, ファシリテーション研究]

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) "The unequal educational opportunities experienced by Indo-Chinese refugees resettled in Japan", NORRAG NEWS No 53, pp. 46-48.

IV. 学会発表

- (1) 「理科指導における科学的方法に関する理解－インドネシアを事例として－」, 日本比較教育学会第52回大会, 於: 大阪大学, 2016年6月26日
- (2) "Teachers' understanding of inquiry activities: Observing aid programs", The 60th World Assembly of International Council on Education for Teaching, The University of the West Indies, Mona, Jamaica, July 21, 2016.
- (3) "Promote teacher learning through lesson study in Kenyan primary schools", World Association

for Lesson Studies, International Conference 2016, Exeter University, UK, September 4, 2016.

- (4) “A study on intercultural experience of Japanese overseas volunteer teachers”, The 28th Annual Conference of the Japan-U.S. Teacher Education Consortium, Ehime University, November 6, 2016.

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 企画：“Participatory communication for development and empowerment”，大阪女学院大学国際共生研究所ファシリテーション・メディエーション研究会，於：大阪女学院大学，2016年2月15日
- (2) 企画：「世界一大きな授業」，於：大阪女学院大学，2016年5月12日
- (3) 企画・ファシリテーション：「ザンビアにおける授業研究10年の歩み：日本の教育技術の現地適応と課題」，大阪女学院大学国際共生研究所ファシリテーション・メディエーション研究会，於：大阪女学院大学，2016年4月21日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 鳴門教育大学教員教育国際協力センター共同研究員
- (2) Editorial board member of the International Journal of Comparative Education and Development (IJCED)

中垣 芳隆(なかがき・よしたか) [学校経営]

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 府立北野高等学校 文部科学省Super Global High School運営指導委員 2014～2019

中井 弘一(なかい・ひろかず) [英語授業実践学, 英語授業研究]

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「英語授業におけるアクティブ・ラーニングの一考察」大阪女学院大学教職課程機関誌『OJU 教職活動報告・研究』vol.6, 2016年3月
- (2) 「効果的な英語プレゼンテーションを行う指導にあたって」『はくはく』第35号, 単著, 兵庫県高等学校教育研究会英語部会発行, 2016年3月

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「効果的な英語プレゼンテーションを行う指導にあたって」姫路市民会館, 兵庫県高等学校教育研究会英語部会 平成26年度研究大会, 2016年2月4日
- (2) 「なるほど・ザ・英文法：コミュニケーションのための教室英文法再考」和歌山ビッグ愛, 和歌山県高等学校教育研究会英語部会 平成28年度和歌山県高等学校教育研究会英語部会総会, 2016年6月2日
- (3) 「書くことの指導の根っこを考える」滋賀県婦人会館, 滋賀県中学校英語教育研究会英語部会 夏季英語教員研修会, 2016年7月26日
- (4) 「アクティブな学びをはぐくむためにActive learningの本質を知る」滋賀県立八日市高等学校, 滋賀県「学びの変革」推進プロジェクト事業八日市高等学校の授業改革研究会, 2016年11月16日
- (5) 「思考をアクティブにするリーディング指導～理解を深める発問力・質問力～」三重県立名張高等学校, 英語授業力向上研修2 三重県高英研との三重県教育委員会連携講座, 2016年11月21日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 関西英語教育学会 運営協議委員 2011年4月～現在に至る
- (2) 大阪教育大学附属中学・高校平野校舎 評議委員 2015年4月～現在に至る

中西 美和(なかにし・みわ)〔臨床心理学〕

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1)「ゲシュタルト療法ワークショップin京都」, 於: ハートピア京都, 2016年2月7日, セラピスト
- (2)「カウンセリング概論」, 関西いのちの電話 第52期電話相談ボランティア養成講座, 於: 関西いのちの電話(博愛社5階), 2016年5月18日, 講師
- (3)「ヒューマン・コミュニケーション・ラボラトリー2016」, HCL研究会, 於: 関西学院千刈キャンパス, 2016年8月24日~8月28日, トレーナー

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本臨床ゲシュタルト療法学会 常任理事 2016年~2018年

西井 正弘(にしい・まさひろ)〔国際法〕

II. 学術論文

- (1)「『環境安全保障』における持続可能な開発」, 黒澤満編『国際共生と広義の安全保障』(大阪女学院大学国際共生研究所叢書4), 東信堂, 2016年12月所収, 149~170頁

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1)「現代国際社会の捉え方-歴史から学ぶことの重要性-」 大阪女学院大学国際共生研究所通信, 第10号, 1頁, 2016年10月31日

IV. 学会発表

- (1)「国連人権理事会 第2回普遍的定期審査(UPR):トルコ」, (公財)世界人権問題研究センター研究第1部2016年度第1回共同研究会, 於: 京都市・世界人権問題研究センター会議室, 2016年4月24日
- (2)「環境安全保障における『持続可能な開発』」, 第52回・第53回平和・人権研究会, 於: 大阪女学院大学演習室, 2016年6月8日, 7月6日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1)「シリア難民と欧州連合(EU)の移民政策」, 2016年度人権大学講座(主催, 世界人権問題研究センター), 於: ハートピア京都(京都府立総合社会福祉会館), 2016年9月1日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 環境法政策学会 理事 2003年6月~(現在)
- (2) 世界法学会 理事 1996年5月~(現在)
- (3) Development of International Law in Asia (DILA), Counsel, 2014~(現在)
- (4) (公益社団法人) 京都勤労者学園顧問 2010年6月~(現在)

奥本 京子(おくもと・きょうこ)〔平和学・紛争転換学・非暴力介入論・平和ワークにおける芸術アプローチ・ファシリテーション論・メディアーション論・NGO論〕

I. 著訳書

- (1)「ジェンダーからみた安全保障:二元論を超えて」, (梶原渉, 城秀孝, 布施祐仁, 真嶋麻子)『18歳からわかる 平和と安全保障のえらび方』大月書店, (pp. 180-186), 2016年1月20日, 単著
- (2)「紛争解決の条件『共感』の欠如」, (前田朗)『「慰安婦」問題・日韓「合意」を考える:日本軍性奴隷制の隠ぺいを許さないために』彩流社ブックレット2, 彩流社, (pp. 84-85), 2016年3月30日, 単著

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1)「部会2 平和教育プロジェクト委員会によるブース展示とワークショップ実践(平和教育プロジェクト委員会企画)」, 『日本平和学会ニュースレター』第22巻第1号, 2016年5月15日, 単著

IV. 学会発表

- (1) 「国際共生と広義の安全保障」, 大阪女学院大学国際共生研究所プロジェクト1, 於: 大阪女学院大学503教室, 報告者: 黒澤満, 奥本京子, 香川孝三, 西井正弘, 2016年1月27日
- (2) 「NARPIの意義、トランセンド理論と、芸術アプローチについて」, 科学研究費 研究課題番号: 24616007 研究代表者: 石原明子(熊本大学) 研究種目: 基盤研究(C) 研究課題名: 人間関係のケア学としての紛争解決学の日本における確立のための基盤研究, 於: 熊本大学黒髪キャンパス社文研研究棟2階, 2016年3月7日
- (3) 「消極的平和、積極的平和、そして芸術アプローチによる紛争転換: 東北アジアに思いを馳せて」 多文化関係学会関西・中部地区研究会, 於: 高槻市立総合市民交流センター第3会議室, 2016年7月29日
- (4) “A Challenge to Transform Historical Conflict in Northeast Asia: Combining Circle Process and Ho’o Pono Pono”, Peace Practitioners’ Research Conference “Revisiting Reconciliation-Making it Real”, Centre for Peace and Conflict Studies 於: Regency Angkor Hotel, Siem Reap, Kingdom of Cambodia, 2016年11月25日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「平和教育～ピースワーカーのメソッドを学ぶワークショップ～」, 中日本地区YMCA第16回グローバル教育(開発教育・平和教育・地球市民教育)研修会, 神戸YMCA国際奉仕センター, 於: 六甲山YMCA, 2016年2月13～14日
- (2) 「平和を創る」, 2015年度神学セミナー「平和の神との歩み 1945-2015」, 関西学院大学神学部学内講座委員会, 於: 関西学院大学上ヶ原キャンパス, 2016年2月23日
- (3) 「NARPIの意義、トランセンド理論と、芸術アプローチについて」, 科学研究費 研究代表者: 石原明子(熊本大学) 研究種目: 基盤研究(C) 研究課題名: 人間関係のケア学としての紛争解決学の日本における確立のための基盤研究, 於: 熊本大学黒髪キャンパス社文研研究棟2階, 2016年3月7日
- (4) 「アニメを使った平和学: 紛争解決ワークショップ」, 県立川西明峰高等学校, 於: 県立川西明峰高等学校, 2016年3月18日
- (5) 「みつばち会議: 紛争解決のワークショップ」, ○塾 わじゅく, 於: ○塾 わじゅく, 2016年5月16日
- (6) 「『平和学の父』ヨハン・ガルトゥング博士緊急来日トークイベント『平和国家日本の目指すべき道について』」, ヨハン・ガルトゥングの通訳, 国際平和映像祭, 於: 関内ホール, 2016年5月22日
- (7) “Arts Approaches to Community-Based Peacebuilding”, Mindanao Peacebuilding Institute Summer Training, 於: フィリピン・ミンダナオ・ダヴァオにおけるMPI, Mergrande Ocean Resort, 2016年5月30～6月3日
- (8) 「平和学(の基礎概念)と紛争解決・調停・和解等に於ける芸術アプローチの意味」, 広島大学教養教育総合科目「平和と芸術」, 於: 広島大学東広島キャンパス, 2016年7月25日
- (9) “Conflict and Peace Framework”, NARPI Summer Training, 於: 台湾・金山・金山青年活動中心, 2016年8月8～12日
- (10) “Nonviolent Struggle for Social Change”, NARPI Summer Training, 於: 台湾・台北・228国立記念館, 2016年8月16～20日
- (11) “Cases and Challenges of Peace Education” Pecha Kucha format presentation, “Sharing: Peace Education in Thailand, Philippines, Okinawa and Japan”, “Peace Education Fair: Publicity booths and meeting with the public”, “The Asia Peace Education Workshop: Learning for Peace in Asia vis-à-vis War and Militarization”, Gangjeong Peace Conference 2016, 於: Gangjeong, Jeju, 2016年9月1日

- (12) 第5部 パネルディスカッション, 日本弁護士連合会, 第59回 人権擁護大会シンポジウム第1分科会「立憲主義と民主主義を回復するために: 安保法制と秘密保護法の適用・運用に反対し、その廃止を求めて」, 於: フェニックスプラザ大ホール, 2016年10月6日
- (13) 「キャリアプロフィール」, 神戸女学院大学文学部英文学科, 於: 神戸女学院大学EB館, 2016年10月13日
- (14) 「レイシズムにさよならする方法: 防止マニュアル作りを通じてレイシズムを考える」, 日本平和学会平和教育プロジェクト委員会企画ワークショップ, 日本平和学会平和教育プロジェクト委員会, 於: 明星大学, 2016年10月23日
- (15) 「改憲とヘイト・スピーチに抗して」, シンポジウム「改憲とヘイト・スピーチに抗して」実行委員会, 於: パル法円坂・大阪市教育会館A棟3階1号室, 2016年11月19日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 国際トランセンド 認証トレーナー 2000年11月26日～現在に至る
- (2) 同上 東北アジア地域コンビーナー 2006年～現在に至る
- (3) トランセンド(平和的手段による紛争転換) 研究会 副会長 2013年1月～現在に至る
- (4) 同上 平和と芸術委員会委員長 2010年12月～現在に至る
- (5) 同上 地域委員会 NARPIプロジェクト・リーダー 2010年12月～現在に至る
- (6) 非暴力平和隊・日本 理事 2003年1月31日～現在に至る
- (7) 日本平和学会 平和と芸術分科会 副責任者 2012年2月～現在に至る
- (8) NARPI (Northeast Asia Peace Research Institute) 運営委員会委員 2009年～, 委員長 2014年～現在に至る
- (9) ACTION Asia Leader 2010年11月～現在に至る
- (10) 京都造形芸術大学・東北芸術工科大学 共同研究機関「文明哲学研究所」 客員教授 2013年4月～現在に至る
- (11) Peace News Japan 理事 2013年6月～現在に至る
- (12) IPRA, Art and Peace Commission, co-convener 2014年8月～現在に至る
- (13) 神戸家庭裁判所(本庁) 家事調停委員 2014年10月1日～現在に至る
- (14) 大阪女学院大学国際共生研究所(RIICC) プロジェクト3「ファシリテーション・メディアエーション研究」設立者・代表 2014年10月8日～現在に至る
- (15) The Charhar Institute (察哈尔学会) 高級研究員 2015年12月～現在に至る
- (16) 日本平和学会第22期理事 2016年1月～2017年12月
- (17) 日本平和学会第22期事務局長 2016年1月～2017年12月

VII. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) 「人間関係のケア学としての紛争解決学の日本における確立のための基盤研究」 科学研究費基盤研究(C) 平成24～26年
- (2) 「原発災害後の人間関係の葛藤への紛争解決学による変容支援研究」 科学研究費基盤研究(C) 平成27～29年

大塚 朝美(おおつか・ともみ) [英語音声教育, TESOL]

II. 学術論文

- (1) 「筆記、実技、意識調査から検証する音声学習項目の定着: 語強勢とイントネーション・パターンについて」『大阪女学院短期大学紀要』第45号, 2016年3月(共著)

IV. 学会発表

- (1) 「学生による発音自己評価の検証: 通年の指導から得られる学生の評価力」, 外国語教育メディア学会(LET) 第56回全国大会, 於: 早稲田大学, 2016年8月9日(共同)
- (2) 「英語教職課程履修生による自主的な発音練習への取り組みと課題」, 全国英語教育学会

(JASELE) 第42回埼玉研究大会, 於: 獨協大学, 2016年8月20日(共同)

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) “Using iPads in integrated skills classes at Osaka Jogakuin University/ Osaka Jogakuin Junior College” (Poster presentation), Back to School 2016 Mini Conference (JALT Osaka Chapter), April 23, 2016
- (2) 『『英語らしい発音』とは? 世界で通用する英語の発音を目指そう!』, 大阪女学院大学・短期大学 オープンキャンパス, 2016年5月29日
- (3) 『『英語らしい発音』とは? 世界で通用する英語の発音を目指そう!』, 大阪女学院大学・短期大学 オープンキャンパス, 2016年7月31日
- (4) 『『英語らしい発音』とは? 世界で通用する英語の発音を目指そう!』, 大阪女学院大学・短期大学 オープンキャンパス, 2016年8月28日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 外国語教育メディア学会(LET) 運営委員 2012年4月～現在

VII. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) 「英語オーラルコミュニケーション能力の伸長の可能性－語彙学習方略と反転授業に着目して」文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究分担者 2016年4月～2019年3月

朴 賢淑(パク・ヒヨンス) [キリスト教学(神学), 宣教学, 東アジア]

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 咸錫憲著「歴史の意味(역사의 의미)」(『九月会議: 世界精神指導者緊急の集い』, 思想案, 1984年9月所収) を韓国語に翻訳 마보새 함석헌Site http://ssialsori.net/bbs/board.php?bo_table=0310&wr_id=84, 2016年11月公開開始

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「神の国はあなたがたの中に」, 大阪女学院法人職員研修会, 大阪クリスチャンセンター, 2016年8月8日.
- (2) 「愛の実としての大阪女学院」, ヘール先生墓前礼拝, 服部緑地外国人墓地, 2016年11月12日.

関根 聡(せきね・あきら) [社会学, 家族社会学, 福祉社会学, ジェンダー論]

II. 学術論文

- (1) 「看護学生における性役割意識の一考察 3」, 『吉備国際大学大学院社会学研究科論叢17号』, 2016年3月1日, 単著

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 高槻市市民生活部人権・男女共同参画課主催, 「『男女共同参画』をわかりやすく考える! - みんないきいきと多様な生き方が出来る社会へ- (女性が社会参画するためのエンパワメント講座)」講師(講演), 高槻市立総合市民交流センター, 2016年6月11日.
- (2) 加古川市市民部人権施策推進課主催, 「高齢者介護をめぐる家族危機-高齢者社会の現状-(人権学習専門講座)」講師(講演), 加古川市人権文化センター 大ホール, 2016年6月25日.
- (3) 姫路市交流振興局人権啓発センター主催, 「高齢者介護をめぐる家族危機」講師(講演), 姫路市東市民センター, 2016年9月9日.
- (4) 姫路市立東小学校主催, 「高齢化の状況と家族関係(人権教育講演会: 保護者・地区住民・教職員研修会)」講師(講演), 姫路市立東小学校, 2016年10月28日.

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 八尾市男女共同参画審議会 副会長 2010年9月～2018年11月
- (2) 阪南市男女共同参画推進審議会 副会長 2014年7月～2018年3月
- (3) 大阪市 大阪市立男女共同参画センター西部館及び大阪市立こども文化センター 指定管理

Swenson, Tamara (スウェンソン・タマラ) [Communication, Media Studies, English Education]

I. 著訳書

- (1) (2016, February). *Beoming a peacemaker: A reader* (2016 ed.). Osaka Jogakuin Press. ebook.
(Eds. Swenson, T., with Lyddon, P., Fu, A., Okumoto, K.)
- (2) (2015, February). *Writing in English: A guide* (2016 edition). Osaka: Osaka Jogakuin Press. (Ed.).
(e-book)

IV. 学会発表

- (1) iBooks creation for EFL environments: Using iBooks Author. ExcitELT, Seoul, Korea, March 19.
- (2) Managing a content-based curriculum. JALT College and University Educators Conference on Content-Based Instruction. Osaka, Japan. September 24.
- (3) Adoption to acceptance: Perspectives on technology. JALT International Conference, Nagoya, Japan, November 27.

V. その他の発表 (シンポジウム・講演・放送等)

- (1) Use the tech, keep the connect. Plenary speaker at the 2016 ExcitELT, Seoul, Korea, March 19.

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) Japan Association for Language Teaching, JALT Journal, Editorial Advisory Board, January 1, 2016 to December 31, 2016
- (2) Japan Association for Language Teaching, JALT Conference Proceedings, Editorial Advisory Board, January 1, 2016 to May 1, 2016

Teaman, Brian (ティーマン・ブライアン) [Phonetics, Computer Assisted Language Learning]

III. その他の著作 (研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) Book Review of Moyer, A. (2013) *Foreign Accent: The phenomenon of Non-Native Speech*. Cambridge: Cambridge U. Press in *SpeakOut!* Sept. 2016 vol. 55 Newsletter of the Pronunciation Special Interest Group of International Association of Foreign Language Teachers.

IV. 学会発表

- (1) (2016). Adoption to acceptance: Perspectives on technology. JALT International Conference, Nagoya, Japan, November 27. (with T. Swenson)